

## 第4回環境教育・環境学習ネットワーク会議 議事録

日 時：平成22年8月27日（金） 15:00～17:00

場 所：1号館3階会議室

出席委員：高橋会長、鈴木副会長、稲委員、宇佐美委員、内船委員、斉藤（等）委員、  
齊藤（允）委員、橘委員、野崎委員、原口委員（10名）

事務局：環境部自然・環境政策課（松尾課長、加藤主査、池田主任、川村主任）

傍聴：1名

### ◆ 会議の流れ

#### 1 開会

#### 2 事業報告

- ・湘南国際村めぐりの森サマースクール 2010
- ・「総合的な学習の時間研究会」学習会

#### 3 議題

##### （1）第4回会議の検討課題等

- ・トライアル事業案の検討について

##### （2）市の事業報告にについて

- ・各計画の進捗状況について
- ・環境ポスターコンクールについて
- ・横須賀ECO大賞の募集について

#### 4 その他

### ◆ 会議の要旨

第3回会議で実施の案内があった2つの事業について、委員から報告があった。

- ・湘南国際村めぐりの森サマースクール 2010（野崎委員）

8月7日（土）～14日（土） 湘南国際村めぐりの森、研修センターで開催  
講座、観察会等に約150名参加

- ・「総合的な学習の時間研究会」学習会（橘委員）

8月2日（月） 野比川観察会 小中学校教員約30名参加

(1) 第4回会議の検討課題等

● 自然・環境政策課から趣旨説明

- ・ 前回までの検討結果の確認
- ・ シンボル事業については、平成24年度以降の実施を目標に平成23年度の検討とする。
- ・ トライアル事業については、平成23年度の実施に向けて、今年度中に事業内容を固めるために、事務局から2事業案を提示。

トライアル事業案1「市内の環境関連事業の情報の一元化・情報発信」

トライアル事業案2「相互交流を生かした人材育成講座の試行」

・ 議論のポイント

- ① トライアル事業実施内容の精査（時期、内容、ネットワーク会議の役割等）
- ② シンボル事業の方向性について
- ③ その他喫緊にこの会議で検討することの提案

【意見交換内容】

(高橋会長) 事務局から2つの事業案の提案があった。まず、事業1「市内の環境関連事業の情報の一元化・情報発信」について検討したい。

1点確認なのだが、経費の部分で用紙代は20,000枚で145,600円とあるが、年4回ということは、その4倍かかるという計算か？

(川村) 年間で145,600円である。用紙枚数を20,000枚から80,000枚に訂正をお願いしたい。

(高橋会長) 事業1について、質問や提案はあるか？

(稲委員) 情報発信のためにホームページの活用という提案だが、ホームページだと自分から見ようという人しか見ない。テレビのように誰もが見やすい媒体は利用できないか。JCOMの協力を得てケーブルテレビなどで情報提供できないか。

(川村) JCOMの横須賀市で持っている枠を活用させてもらうことは可能だと思うが、市民効果を考えると定期的に繰り返しということが必要だと思う。コストやJCOMとのタイアップなど調べたい。周知・啓発ということでは確かにテレビは有効な手段だと思う。

(鈴木副会長) 委員の役割について具体的に知りたい。例えば委員ごとに役割分担するなか？

(川村) まず、情報収集の部分でご協力いただきたいと考えている。各委員の所属する団体の情報をお知らせいただきたいと思っている。こうした企業連合会がある、こうした会合での呼びかけが効果的など。そうした基本となる情報がもらえれば、その先は事務局で収集する。

(鈴木副会長) 私も他の場面で同様なケースを考えたことがあるが、市内には組織化された事業者の団体はない。企業同士でも情報が入手しにくい状況である。商工会議所の活用など考えられると思うが、情報収集をどう行うかは鍵であると思う。

(野崎委員) 市民団体からの情報提供では、「環境」をどの範囲までと定義するのかという点で変わることもあるが、「三浦半島まるごと博物館」というネットワークがある。横須賀市のみならず、三浦半島の市民団体のイベント等の情報はだいたい集めることができる。あとは、環境の範囲と、地域の範囲をどこまでにするのかの検討が必要だと思う。

(高橋会長) 収集した情報のまとめは事務局で行うのか。

(川村) 会議の時間は限られているので、基本的なまとめは事務局で行う。

参考資料として、市の事業調査票をみてほしい。これをベースに、拡大化する形でデータベースを作ることができればと思っている。

(鈴木副会長) これを基本情報として形をつかってホームページでまず情報提供し、それに追加を呼び掛けるといった形が良いのではないかな。

(高橋会長) 目的は集めることではなく、集めたものを利用してもらうことだと思う。利用する立場が使いやすいようにまとめることが肝要だ。あと、情報をどう提供してもらうかの仕組みづくりだと思う。

(内船委員) 資料によると、事務案は、情報発信のホームページを立ち上げ、それを運営しながら情報収集を行っていくという提案である。そうすると、この会議の第1の役割は、ホームページをどうデザインし発信していくかということではないか。最初にとれるだけの情報をとってというよりも、ある情報を発信し、その中で「情報を募集しています」ということをうたっていけばいいのではないかな。情報収集は、情報提供と並行して進めてもいいのではないかな。

(野崎委員) 最初のうちはホームページに情報が少なくても、便利だということがわかれば徐々に広がっていくと思う。すぐには無理かもしれないが、利用しやすければ、ホームページはだんだんと育っていく。今の横須賀市ホームページから環境関連の情報を探すのが難しい、誰もが検索しやすいものであってほしい。

(松尾課長) 今、横須賀市ではホームページのリニューアル作業を行っている。これまでは広報課が一元管理をしていたのが、今秋から各課で管理するようになる。そうした変更もあってホームページの活用を提案した。ホームページの見せ方もその中で考えていく。環境学習関連の2つのホームページ「よこすかの環境教育・環境学習」「よこすかの環境保全活動」を見直して新しいイメージをつくりお示する。ホームページはイベント等の情報提供だけでなく、例えば市民団体や企業のコーナーや、テーマごとの特集ページ、参加者の感想なども盛り込んでいけたらと思う。このネットワーク会議を中心とした会員制のホ

ームページなども考えられると思う。委員の皆さんのアイデアをいただき、次回にはもっと具体的なものをお示したい。

(高橋会長) この事業名が「環境学習関連事業」から「環境関連事業」となったことについてはどうか？ さきほど野崎委員から、「環境の範囲をどこまでとするか」という発言もあったが、「環境」だと広すぎる。明確な枠組みをつくらないといけない。

(松尾課長) まずは間口を広げたいという思いで提案した。しかし、確かに環境の分野は広いので、精査していく必要はある。委員の皆さまの意見を参考に案をつくっていきたいが、最初は広いところから始めたい。

(高橋会長) 「(仮称) 横須賀 E C O 通信」はどんなイメージなのか？

(川村) A 3 版用紙 2 つ折りの 4 ページのリーフレットをイメージしている。資料に記載しそびれたが、イベント情報のみでなく、その時々の特ピックスなども盛り込んでいきたいと考えている。四半期に一度だとリアルタイムの情報は難しいので、参加者の感想など、身近に感じてもらえる工夫をしたい。

(高橋会長) 提供した情報をどれだけ見てもらえるかが大事だ。

(松尾課長) 会長のおっしゃるとおり、問題は「いかに利用してもらうか」という点にある。いくら良いホームページをつくっても利用してもらわないと意味がない。先ほど J C O M というご提案もあったが、さまざまなメディアの活用も含め、興味をもってもらえるような作り方、周知の仕方をどうするかが肝要だ。

(高橋会長) 広報よこすか 8 月号に見開きで大きく環境特集が組まれていたが、これをどれだけの人がみていたのか疑問だ。必要な人に必要な情報を与えることは本当に難しい。

(宇佐美委員) 参加しやすさという点でホームページは便利だが、「自分から見に行く」という点は時間的にも難しい。先ほどの会員登録という話にもつながるが、関心のある人にメールで情報提供することもあるのではないかと。情報を提供して待っているだけではいけないと思う。その場合も内容が多いと見てもらえないので、工夫が必要である。

(川村) 次のホームページはパソコンだけでなくモバイル版の作成も検討している。それと併せてメルマガ等の仕組みも考えたい。たくさんの方が使いやすいものにしたい。

(原口委員) ホームページはどうしても待ちの状態になる。より多くの人に興味をもってもらうためには、単なる情報だけより、トピックスや、参加した人の感想などを盛り込むことが大事だと思う。例えば旅行のホームページなどでは口コミの情報があると興味を覚える。固定的な情報のほかに、そうした「生きた情報」を取り入れると有効だ。また、他のホームページにリンクをはってもらうことも良い方法だと思う。行政のホームページなので制約はあると思うが、見てもらう工夫が必要だと思う。

(高橋会長) 本日の検討議題に、トライアル事業の平成 2 3 年度の実施の可否があるが、これ

は実施する方向でいいのではないか？事務局にお願いする部分も大きいですが、ホームページは最初から完璧なものではなく、運営しながら情報を増やしていくということで、来年度から実施することとしてはどうか？

(内船委員) ホームページの見直しについては、既存のホームページのリニューアルの方法は、まったく新しいホームページを作るということか。それとも、2つのホームページのどちらかに情報提供のコーナーを作るのか？

(川村) 一番簡単なやり方としては、現行のどちらかのホームページにイベント情報コーナーなどを設けるやり方だが、2つのホームページの入り口となる新しいホームページをつくり、そこから各コーナーとリンクさせてもいいと思う。具体的な内容はまだ決めていない。

(松尾課長) 現行の2つのホームページは、最近では相互に関連する内容が増えてきており、どちらかに掲載すべきか迷う場面もある。個人的には、ひとつのページからいろいろなコーナーに行ける方がわかりやすいのかと思う。市全体のホームページの作り方にも関係するので、そのあたりと調整しながら考えたい。

(高橋会長) 現行の「よこすかの環境保全活動」は、毎年度の活動実績を更新するようになっているが、その必要があるのかは疑問だ。

(松尾課長) 本当は毎年団体が増えることでホームページを更新できればいいのだが、なかなか増えない現状がある。会長のおっしゃるとおり、今は決まった団体の掲載しかいないため、実施内容の更新という形をとらせていただいている。

(高橋会長) では、事業案1については今日の会議意見をもとに事務局で進めてもらうということではどうか？

#### 【委員異議なし】

(高橋会長) では、事業案1についてはそれで決定とする。次に、事業案2について検討をしたい。

この事業案は、これまでそれぞれが実施してきた内容を整理して体系づけているというものなので、実施自体は難しくはないと思う。質問や提案はあるか？

(宇佐美委員) 学校の教員を対象とした研修は、教育研究所で行っている。フィールドワークの研修は人気があるが、土日に実施する研修では参加者が少ない。最近では教員が土日に学校以外に出ることが本当に難しいので、事業案のように夏季休暇を使うということはいいと思う。

(高橋会長) そのことについて、学校現場の意見はどうか？

(橘委員) 土曜日は休日だが学校で仕事をしている教員は多い。その上でさらに日曜日に研修に参加することは厳しいと思う。

(原口委員) 夏季休暇のように長い休みの方が教員に時間がある。それ以外の土日は、業務や

子どもたちとの関わりに時間をとられることが多く学習に向ける余裕がない。夏季休暇中の平日が一番参加しやすい。今年の研究会に多くの参加者があったのもそうした理由によると思う。

(高橋会長) 今学校は2学期制だが、学期の間の休みは何日あるのか？

(原口委員) 前期と後期の間の休みは5日である。

(高橋会長) そうなると利用できる長い休みは、夏休みのみということか。

(原口委員) そうである。

(川村) 事務局から確認させてもらいたい。開催については土日よりも夏季休暇中が参加しやすいことはわかったが、実際にトライアル事業を実施したときにどのくらいの参加者がいるかが一番気がかりである。「総合的な学習研究会」主催と同様に、「ネットワーク会議」主催研修に先生方が集まるか？

(高橋会長) 「総合的な学習研究会」は「環境」のみがテーマではないと聞いた。その辺はどうか？

(橘委員) 今年の「環境」をテーマにした学習会は、昨年の「福祉」をテーマにしたものよりも参加者が多かった。内訳でも、昨年は研究会の会員がほとんどであったものが、今年は研究会以外の教員が半数をしめていた。それは、やはり「環境」に関心を持って、授業に使えるアイデアはないかとアンテナを張っている教員が多いという気がしている。研修の呼びかけ方ということだが、通常は教員向けの研修は教育研究所が主催するので、呼びかけについても教育研究所が行うことが一般的である。

(宇佐美委員) 教育研究所は教員向けの研修を行う場所である。このネットワーク会議のメンバーから講師を招いて研修を行うことは可能だと思うが、研修会は、この会が主催となる事業としての呼びかけでなくてはならないのか？

(川村) 今の提案では、ネットワーク会議主催の事業であるため、呼びかけもネットワーク会議として、事務局である自然・環境政策課名で発信することを想定している。

(松尾課長) 環境教育の事業実施については、いろいろな方法があると思う。市の中でも部ごとに様々な事業を実施しているので、いくつかを一事業にまとめることや、シリーズ化して行うこと、例えば一枚のチラシで複数の事業を紹介するなど考えている。そうしたことをどこが中心となって実施していくのが効果的なのかは検討が必要である。

現在のネットワーク会議は「任意団体」ではなく「会議」としているもので、団体としての活動がどうかということもあるが、将来的には団体として具体的な活動をする方向も考えられる。

このトライアル事業については、「人」と「場所」を考えて提案した。事業案1はホームページという場所。事業案2は、「人」の部分で、関心やコミュニケーションを主眼にお

いている。ゆくゆくは人材育成の場所や、エコツーリズム、里山などにつなげいくためのきっかけとした事業にしたいと思っている。

(橘委員) 企業が講師となった研修では、市職員や市民だけでなく学校の教員も対象にしてほしい。現実的にはどれだけの参加があるかはわからないが、学校と事業者のつながるラインもほしい。

(鈴木副会長) 今の事業に関連した話だが、今年、コミュニティセンターで市民対象の講座を実施した。座学と工場の見学を半々とした。環境学習というどうしても重いイメージがあるので、施設の見学などはわかりやすくて喜ばれる。そうしたアプローチがあってもよいのではないか。

(高橋会長) この事業2がこれまで各主体で実施してきたものと少し異なるポイントとして、「人材育成」を目的としていることがある。単に環境教育を行うということではなく、この講座を受けた人が次は環境教育を行う立場となることを想定していると思う。

(川村) ゆくゆくはそれが目標だが、最初から「指導者になってください」といって講座を受講してもらうことも大変なので、まずは「きっかけづくり」が大事だと思っている。

(野崎委員) 学校に関連してだが、先生方には人事異動があるので、新任の先生は学校がある地域のことをよく知らないという話をきく。地域の団体と学校との学び合いがもっと密にできれば有効なのではないかと思う。市全体を学ぶこともいいが、地域の特性ごとに学ぶ合う場も大事だと思う。

(高橋会長) 各学校に制度として地域の協力員というものがある。私も地域の小学校に登録しているが、まだ声がかかったことがない。

(稲委員) 学区の中でボランティアをしてくださる方の名簿がある。

(原口委員) その名簿は、地域の人材活用ということで教育委員会が作成し配付されたが、最近動きが下火になっている。また、扱いも学校によってまちまちになっている。

(川村) 地域と学校との関わりはどうか？

(斉藤(等)委員) コミュニティセンターでは、環境にかぎらずにいろいろなことをやってくことに重きを置いている。センターのある地域と関係していこうという動きの中で学校や企業と連携をはかっている。

(高橋会長) 町内会の立場はどうか？

(齋藤(允)委員) 毎年、地域の中学校と防災訓練を兼ねて、集団下校した子どもたちを町内会単位で学習会を行うことをしている。今年は、環境と地域の歴史の学習会を行った。個人同士ではなく、学校と町内会などの団体という結びつきで、農業実習や小学校の行事への参加など地域全体で動いている。もっとその中で環境についても取り組んでいきたいと思っている。

(内船委員) 環境教育は普遍的なものだと捉えていたが、これまでの話で地域ごとのローカルなテーマに対応できる人材の発掘や育成が大事ではないかと感じた。また、この事業案2は相互交流の講座を連続的に実施していくということだが、こうした連続的な講座を重ねていくことで蓄積されるものを保持することも大事ではないかと思う。ローカル性とも関連することだが、講座の回数を重ねることで、各地域の特性についても残していけるのではないか。

(高橋会長) 地域に何かシンボリックなものがあると環境については学習しやすい。川や海などがあればいろいろと発展できるが、そうしたものがない地域についてはどうするか？

(稲委員) 私の学校の地域にもそうしたものがなく、環境学習で何を活用するか悩ましい。ただ、教員は異動するので、今の地域だけでなく環境全体について知りたい。

(高橋会長) 以前、平作川の下流にある学校で、川の源流を知るという学習をしたことがある。そうして身近な場所から次に発展していく方法もある。教科も社会科などから繋げていける。学習のやり方はいろいろ工夫できると思う。

事業案について、いろいろな意見がでたが事務局から確認したい点はあるか？

(川村) 話をお聞きして、学校の教員対象研修はスケジュール的に厳しいことがあらためてわかったが、いろいろと情報をいただいたので、あとは教育委員会と相談しながら具体的な内容を検討したい。

(高橋会長) トライアル事業案の検討についてはこれで終了とする。

## (2) 市の事業報告について

### ● 自然・環境政策課から報告と協力依頼

- ・横須賀市基本計画（2011～2021）、新環境基本計画各計画の策定状況について
- ・環境ポスターコンクールについて
- ・横須賀E C O大賞の募集について

(高橋会長) 今回意見が最初出にくかったのは資料の事前配付がなかったことも影響していると思う。次回からは資料は事前配付するよう事務局にお願いしたい。

本日はこれで終了とする。

**【事務連絡等】** 第5回は1～2月に開催する。日程調整を後日行う。